

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2013年冬)の結果

千葉経済センター

(公益財団法人ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、2013年冬のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

<ボーナス予想額 >

52.8万円(前年冬比、4,000円増加(+0.8%))

今冬のボーナス予想額は52.8万円であり、前年の受取額(回答者の実績)を4,000円上回る結果となった。増加率は+0.8%で、冬のボーナスとして受取額が前年比プラスになるのは2007年冬以降実に7年ぶりのこととなる。

アベノミクスによる経済効果、消費税増税にあわせて打ち出された大規模な経済対策、東日本大震災関連予算の確実な執行、2020年オリンピック・パラリンピック東京開催に伴う波及効果等により、国内景気回復が今後さらに強まるとの見方が多い。

当センターの調査は、県内の給与所得者を対象としているが、全般的に今後の暮らし向きには慎重な姿勢が窺える。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は11.8%(昨冬8.0%)と昨冬比3.8ポイント増加、「減りそう」は17.7%(昨冬24.8%)で昨冬比7.1ポイント減少、そして「変わらない」が70.5%(昨冬67.2%)と3.3ポイント増加し、全体としては改善の兆しが見られる。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」81.3%、「社内預金」9.0%、「ゆうちょ貯金」5.4%の順となっている。また、この3項目で全体の95.7%(昨冬96.3%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の2.1%(昨冬1.1%)で若干増加傾向にある。

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位の「住宅関連資金」となった。

▽購入希望上位5品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「くつ」、4位「家具インテリア」、5位「子供服」となった。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は 11.8% (昨冬 8.0%) で昨冬比 3.8 ポイント増加し、「減りそう」は 17.7% (昨冬 24.8%) で昨冬比 7.1 ポイント減少する。また、「変わらない」が 70.5% (昨冬 67.2%) と 3.3 ポイント増加し、全体としては、「増えそう」より「減りそう」との回答が 5.9 ポイント多いが、改善傾向にあることが窺える。

この冬のボーナスは、「増えそう」は 11.8%、「減りそう」は 17.7%、「変わらない」が 70.5% となった。「増えそう」(昨冬 8.0%) が昨冬より 3.8 ポイント増加した。「減りそう」(昨冬 24.8%) は 7.1 ポイント改善した。

また、「変わらない」(昨冬 67.2%) は 3.3 ポイント増加し、「減りそう」から「増えそう」と「変わらない」へのシフトが見られる。

年齢階層別にみると、「増えそう」は例年通り「30 歳未満」が 22.4% と他の階層に比べて高く、続いて「30 歳代」、「40 歳代」、「50 歳以上」となる。今冬の年齢階層別の特色として、「50 歳以上」の世代で「増えそう」5.1 ポイント増加、「減りそう」が 12.6 ポイント減少と、大幅に改善が見られることである。単年度だけでは傾向として

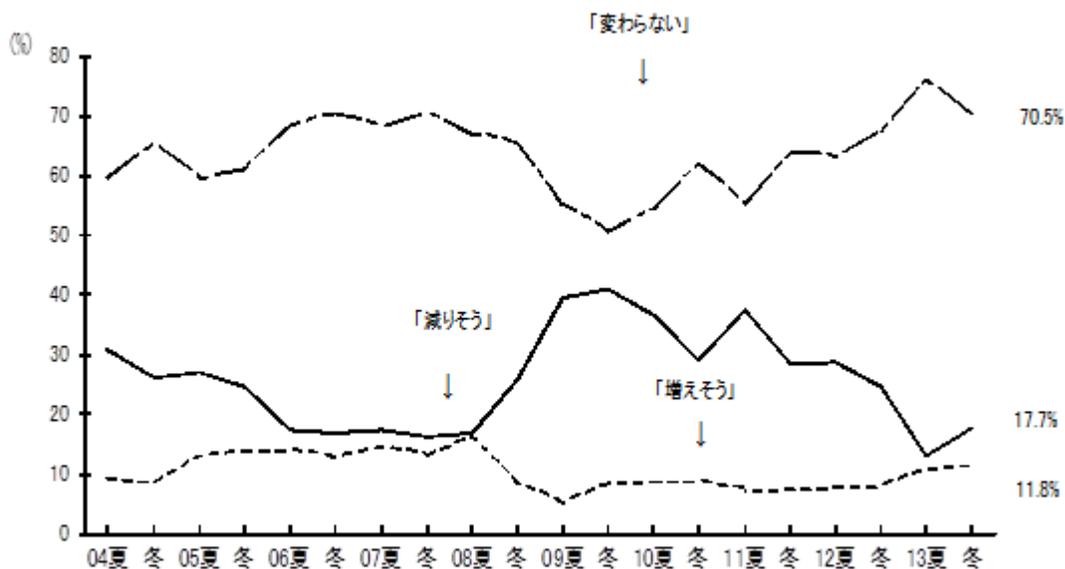
把握できないので、次年度以降注視していきたい。一方、「減りそう」では、「40 歳代」が一番高く、続いて「30 歳代」、「50 歳以上」、「30 歳未満」となっている。「減りそう」と回答した割合は「30 歳代」以降の世代で前年比減少傾向にあることが見てとれる(図表-1)。

ボーナス増減予想割合の推移では、「増えそう」は平成 12 年冬から増加傾向、「減りそう」は平成 10 年冬から減少傾向にある(図表-2)。

図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)
(構成比、単位: %)

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	11冬	7.6	28.6	63.8
	12冬	8.0	24.8	67.2
	13冬	11.8	17.7	70.5
30歳未満	11冬	16.7	20.2	63.1
	12冬	15.9	12.5	71.6
	13冬	22.4	15.9	61.7
30歳代	11冬	4.6	30.8	64.6
	12冬	9.4	25.9	64.7
	13冬	11.7	17.2	71.1
40歳代	11冬	6.9	29.7	63.4
	12冬	8.3	26.6	65.1
	13冬	10.2	20.4	69.4
50歳以上	11冬	5.9	30.1	64.0
	12冬	2.4	28.7	68.9
	13冬	7.5	16.1	76.3
注) 不明、無回答を除いた構成比				

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

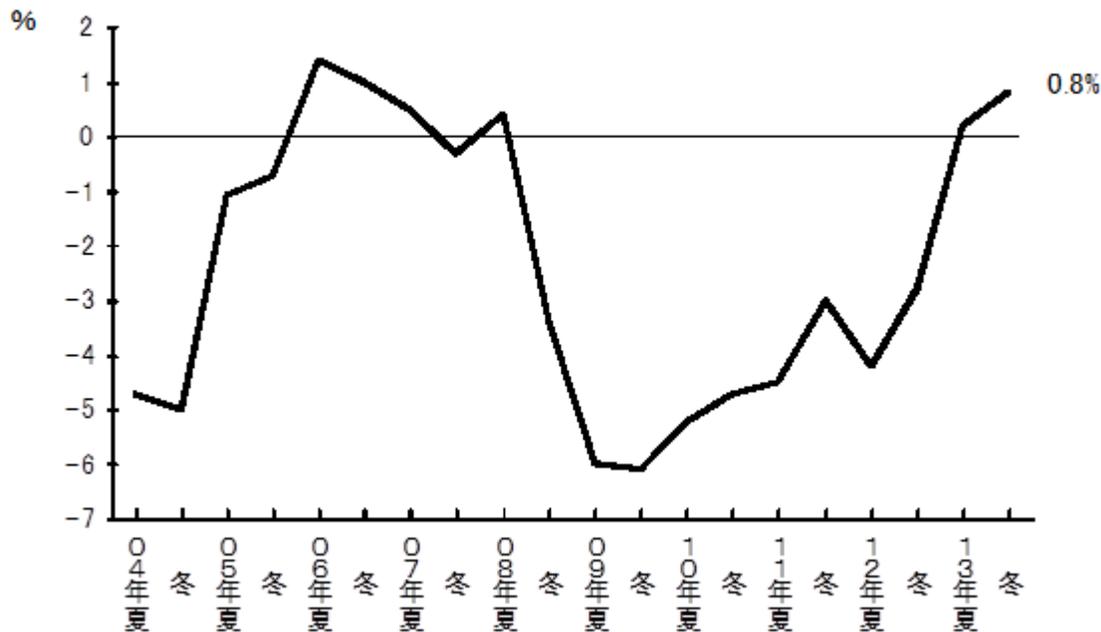
今冬のボーナス予想額は52.8万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を4,000円上回る結果となった。増加率は0.8%で、昨冬(△2.8%)に比較して改善した。冬のボーナスとして、受取額で前年比プラスとなるのは、2007年冬以降、実に7年ぶりのこととなる(図表-4)。

今冬の調査では、全年齢階層で前年を上回る受取額を予想しておりこの傾向は1991年(平成3年)バブル景気終焉以降22年ぶりのこととなる。また、勤務地別での受取予想額は、都内勤務者が88.6万円、県内勤務者が47.4万円であった(図表-3)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年冬、%)
平均		52.8	0.8
30歳未満		34.3	4.6
30歳代		42.6	0.5
40歳代		56.1	0.4
50歳以上		66.6	0.3
勤務地別	県内	47.4	0.2
	東京	88.6	3.3

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(39.3%)、2位「ローン等の返済」(12.5%)、3位「教育・教養」(12.4%)で、以下「生活費の補填」(9.5%)、「買い物」(7.5%)、「旅行・レジャー」(6.6%)の順となっている(図表-5、図表-6)。

1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」の順位は昨冬と変わらず、配分割合も両方で受取額全体の半分位を占めている。従って、実質的に消費に回るボーナスは全体の半分以下になるものと思われる。

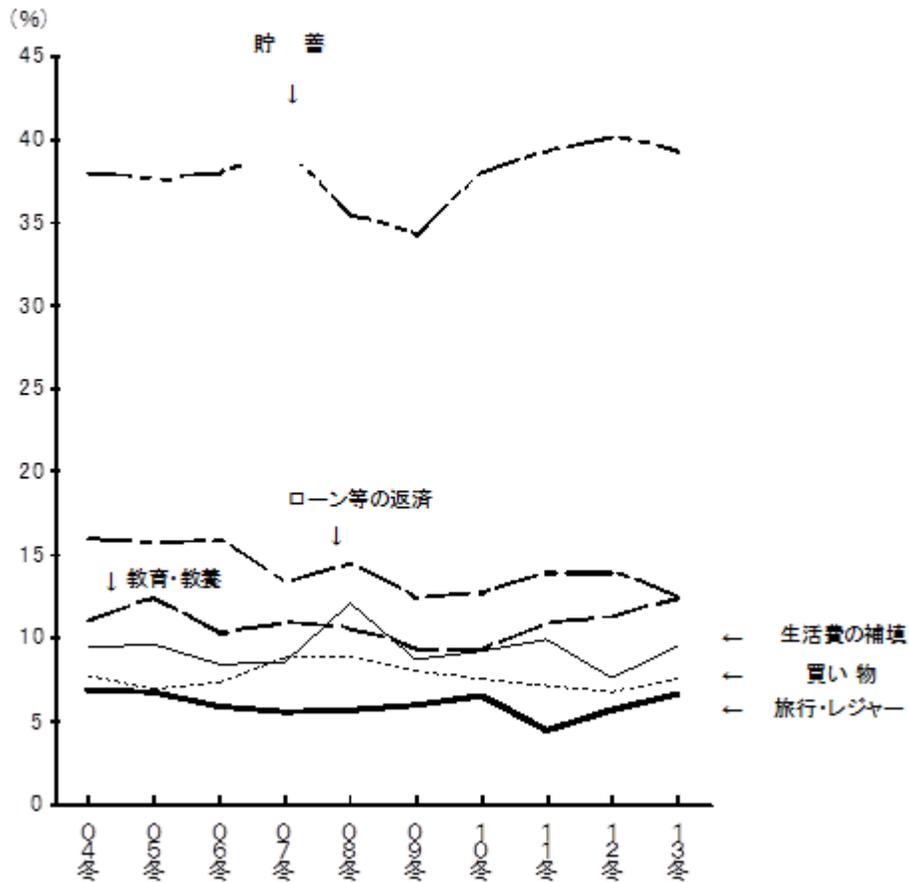
既婚・独身、男・女を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身女性は貯蓄志向が高く54.2%を貯蓄に回すと答えている。

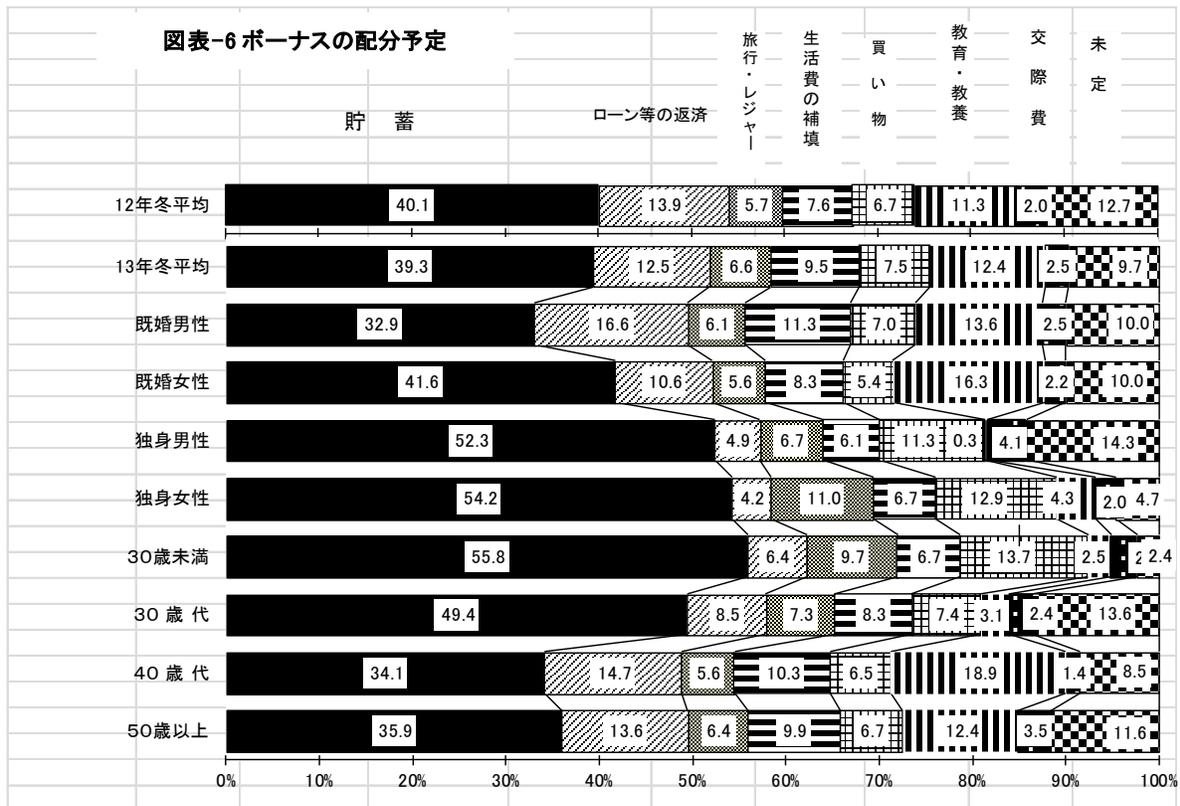
独身者は既婚者に比べて「貯蓄」が高く、次に「買い物」のウェイトが高い。既婚者は独身者に比べて「ローン等の返済」、「教育・教養」が高い割合を占め、独身・既婚それぞれの特徴を表わしている。

年齢別で見ても、全年齢層において配分の一番は「貯蓄」である。なかでも30歳未満は貯蓄志向が高く55.8%を貯蓄に回すと答えている。

貯蓄以外の項目では、30歳未満の年齢層が「買い物」に、30歳代では「ローン等の返済」、40歳代では「教育・教養」、50歳以上は、「ローン等の返済」が高くなっている。

図表-5 ポーナスの配分予定の推移



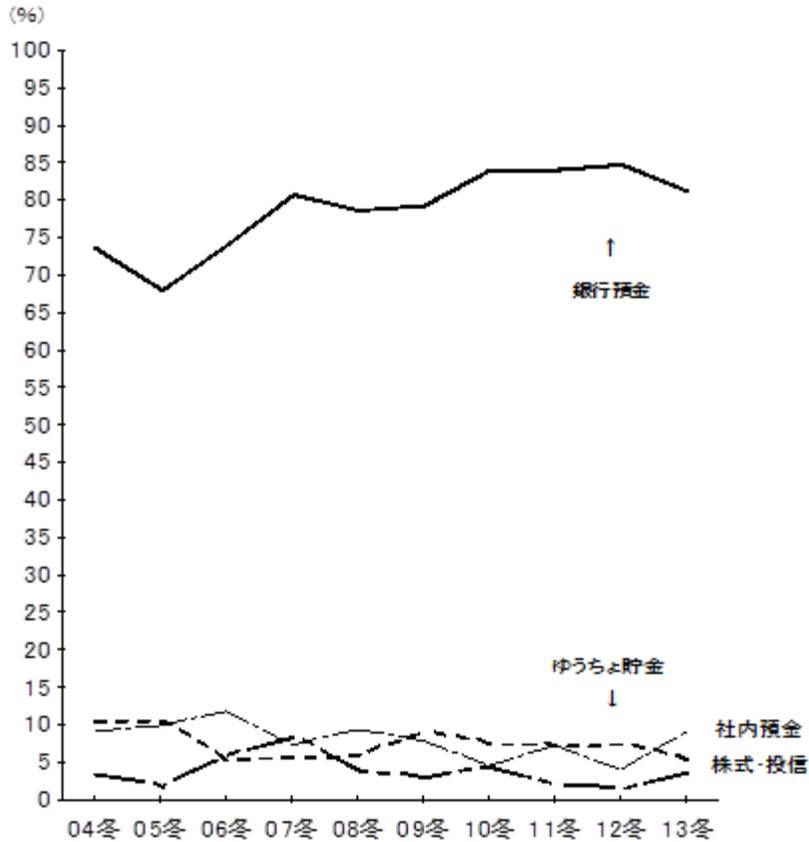


4 貯蓄の内訳

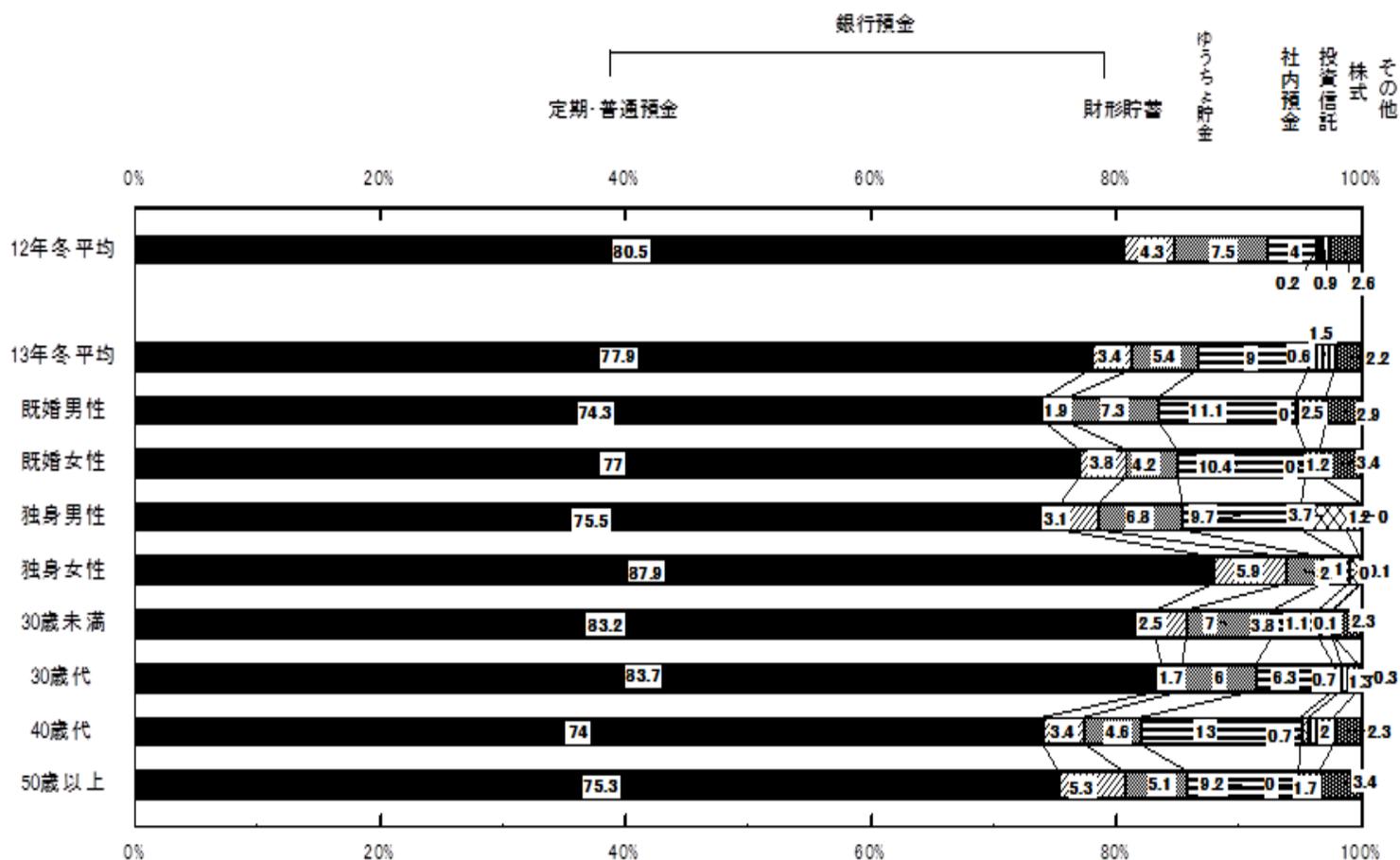
貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」81.3%、「社内預金」9.0%、「ゆうちょ貯金」5.4%の順となっている。昨冬と比較すると、今冬は「ゆうちょ貯金」と「社内預金」の順位が入れ替わった。また、この3項目で全体の95.7%(昨冬96.3%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の2.1%(昨冬1.1%)であり、割合としては小さいが增加している(図表-7、図表-8)。

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別でも、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。銀行預金以外では、「社内預金」が今冬は関心を得ている。「投信・株式」についても徐々に関心を得ている。年齢別でも、各年齢層で「銀行預金」が一番高い。「銀行預金」以外では、30歳未満で「ゆうちょ貯金」に関心があり、30歳代・40歳代・50歳以上では「社内預金」が支持されている。

図表-7 貯蓄の内訳推移



図表-8 貯蓄の内訳

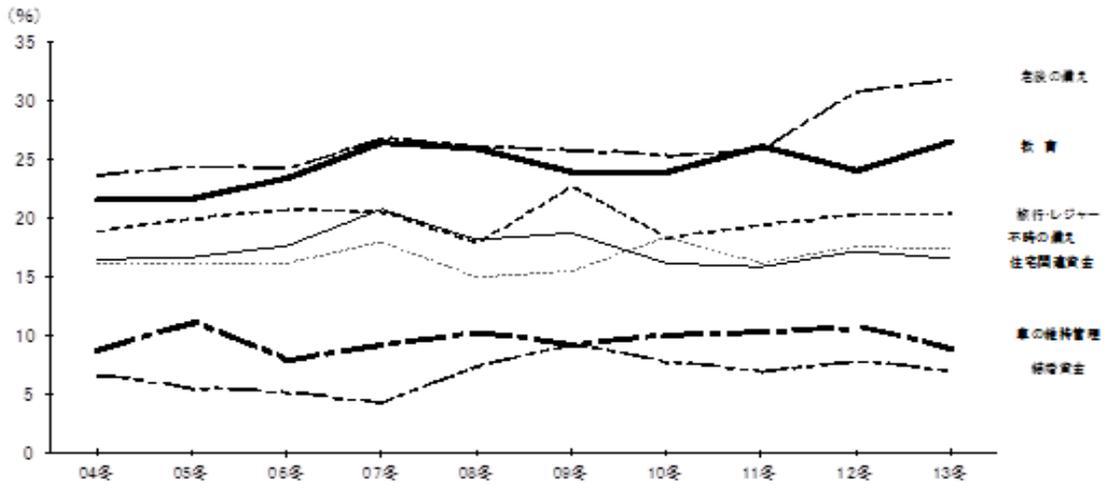


5 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」となった。

貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」31.9%に続き、2位「教育資金」26.6%、3位「旅行・レジャー」20.5%、4位「不時の備え」17.4%、5位「住宅関連資金」16.6%となった。以下「車の維持管理」、「結婚資金」の順である(図表-9)。

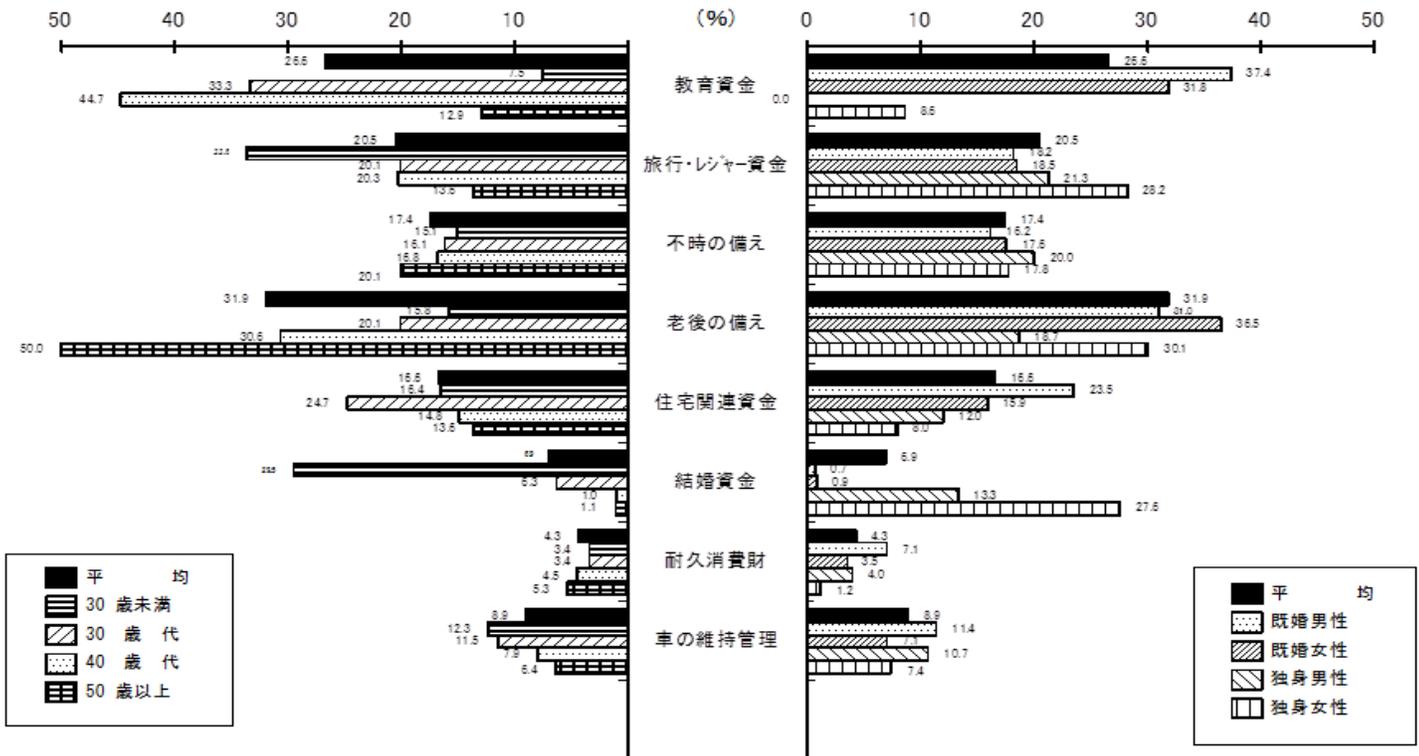
図表-9 貯蓄の目的の推移



年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(33.6%)、30歳代・40歳代は「教育資金」(33.3%・44.7%)、50歳以上は「老後の備え」(50.0%)が他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの相違が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「教育資金」(37.4%)、既婚独身女性は「老後の備え」、独身男性は「旅行・レジャー」(21.3%)、独身女性は「老後の備え」(30.1%)を、それぞれ貯蓄目的としてトップに上げている(図表-10)。

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注) 左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望品目

購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「くつ」が上位を占めた。その他4位「家具・インテリア」、5位「子供服」、6位「パソコン」、7位「靴・ハンドバッグ」、8位「冷蔵庫」、9位「乗用車」、10位「電話・携帯電話機」となった。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)上位は、「婦人服」(17.0%)、「紳士服」(11.1%)、「くつ」(9.5%)の順である(図表-11)。

既婚・独身、男・女別では、女性は既婚・独身を問わず、「婦人服」を買いたいもの1位にあげている。男性では既婚・独身男性とも「紳士服」が1位である。この傾向は、昨冬も同様であった。

図表-11 購入希望主要品目

				(複数回答、単位：%)			
全 体	11冬	12冬	今冬	既 婚 男 性		既 婚 女 性	
				紳 士 服	14.8	婦 人 服	17.1
婦 人 服	16.2	15.5	17.0	パ ソ コ ン	9.1	子 供 服	11.2
紳 士 服	11.2	8.8	11.1	家 具 ・ イ ン テ リ ア	8.8	家 具 ・ イ ン テ リ ア	9.7
く つ	8.0	7.5	9.5	子 供 服	8.4	紳 士 服	7.6
家 具 ・ イ ン テ リ ア	6.1	6.4	8.8	婦 人 服	8.1	く つ	5.6
子 供 服	8.0	7.1	7.2	独 身 男 性		独 身 女 性	
パ ソ コ ン	5.6	5.9	6.9	紳 士 服	36.0	婦 人 服	41.1
靴 ・ ハ ン ド ・ ハ ッ グ	5.5	7.4	6.3	パ ソ コ ン	14.7	く つ	22.7
冷 蔵 庫	2.9	4.1	4.5	く つ	12.0	靴 ・ ハ ン ド ・ ハ ッ グ	19.6
乗 用 車	2.7	3.1	4.2	乗 用 車	9.3	化 粧 品	16.6
電 話 ・ 携 帯 電 話 機	4.1	4.2	3.9	カ ー 用 品	8.0	家 具 ・ イ ン テ リ ア	8.0

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答割合は11.5%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は7.8%で、3.7ポイント減少。一方「減った」は21.0%で、半年後の「減りそう」は19.9%で1.1ポイント減少する。収入についてはまだ明るい状況ではないことが窺える。

(2) 消費支出

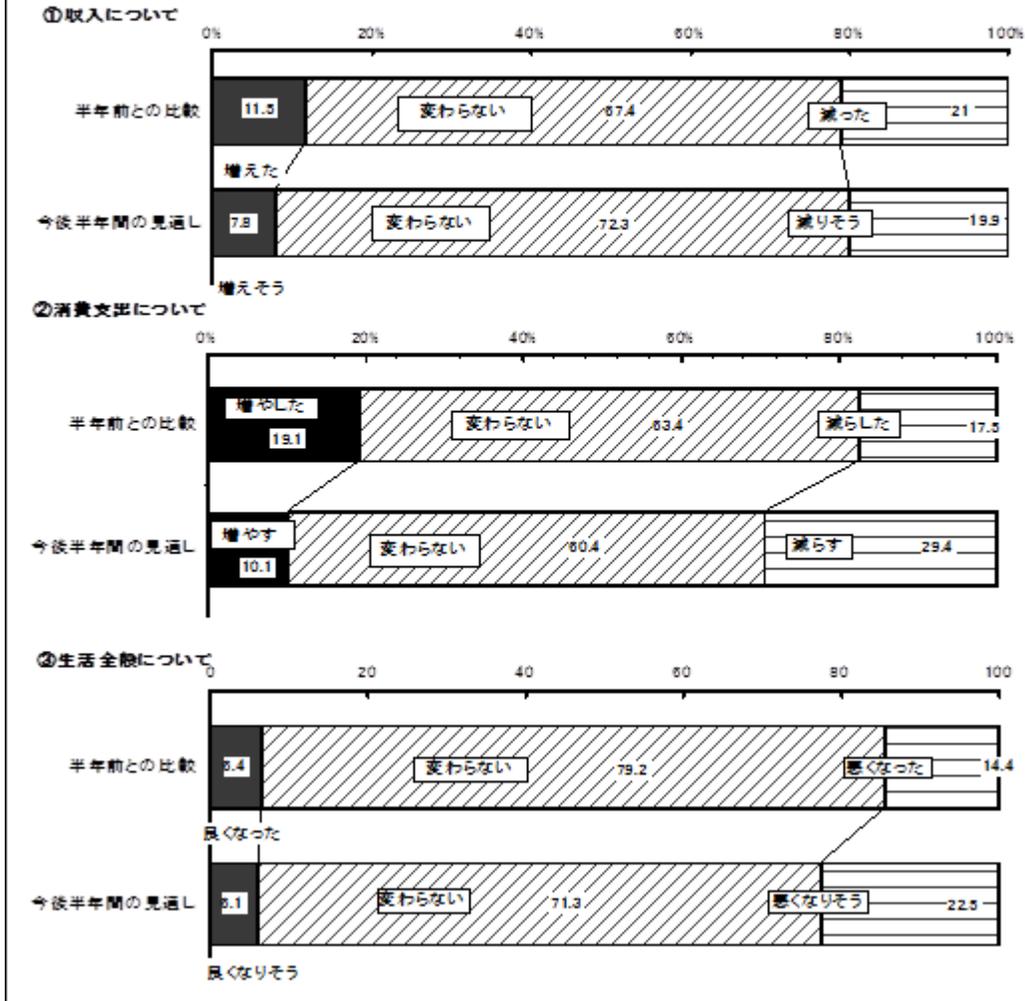
半年前と比べ、支出を「増やした」との回答割合は19.1%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は10.1%で、9ポイント減少。一方「減らした」は17.5%で、半年後の「減らす」は29.4%で11.9ポイント増加し、家計支出は先行き縮小傾向が予想される。

(3) 生活全般

半年前と比べ、「生活全般」において「良くなった」が6.4%で、半年後の先行きについての「良くなりそう」との回答は6.1%で、0.3ポイントの若干の悪化予想。一方「悪くなった」は14.4%で、半年後の「悪くなりそう」が22.5%で、8.1ポイント増加し、生活全般の暮らし向きは若干悪化傾向にあることが予想される回答となった(図表-12)。

(高橋 廣)

図表—12 暮らし向きの実感と今後の見通し



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	14	48	119	116	297
既婚女性	20	70	131	119	340
独身男性	36	25	9	5	75
独身女性	76	31	32	24	163
計	146	174	291	264	875

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2013年10月9日～11日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	875人
有効回答率	87.5 %

